

会議議事録

会議名	令和3年度 第1回教育課程編成委員会
開催日時	令和3年6月15日(火) 14:00~15:30
会場	中央工学校附属日本語学校 2階 図書室
参加者	<p>委員 坂本 敏、佐藤 洋子、渡来 純如、上野 弘道、長谷川龍太、 對馬由希子、笹井 利浩、溝口 健太、高橋 三行、榎本 修</p> <p>陪席者 関野 格至、原 太一、佐久間恵子</p> <p style="text-align: right;">以上 13名</p>
会議録	<p>1. 開会挨拶 座長の坂本敏校長から開会の挨拶を行い、教育課程編成委員会が開会した。</p> <p>2. 委員及び学校委員、陪席者紹介 坂本校長から、委員及び学校委員と陪席者の紹介があった。</p> <p>3. 新型コロナウイルス感染症等への対策・対応（概要）説明 坂本校長から新型コロナウイルス感染症等への本校の対策・対応状況（概要）について説明があった。（配布資料参照）</p> <p>4. 状況説明（職業実践専門課程・愛玩動物看護師法） 坂本校長から「職業実践専門課程」の認定状況および、愛玩動物看護師法の令和4年5月1日施行に向けた検討状況について説明があった。 ・専門学校（専修学校専門課程）における「職業実践専門課程」の認定等（令和2年度）について（配布資料参照）</p> <p>5. 運営報告・運営計画について 坂本校長と佐藤洋子委員から令和2年度運営報告及び令和3年度運営計画の説明があった。</p> <p>(1) 令和2年度運営報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営 ・教学運営 ・動物管理運営 ・施設・設備の改善・整備

- ・ 広報活動の基本方針と成果等
- (2) 令和3年度運営計画
 - ・ 建学の目的と教育方針
 - ・ 運営方針及び運営重点項目
 - ・ 教育指導内容及び教育運営の充実
 - ・ 教育設備機器等の整備
 - ・ 就職指導体制
 - ・ 広報計画等

6. 具体的検討

今回もコロナ禍における各業界の対応状況含め、令和2年度運営報告および各学科の教育運営に対して必要な検討を行い、今後更に改善を要する案件や意見が挙げられた。主なものは次の通り。

(1) 愛犬美容関連科（愛犬美容科・愛犬美容研究科）

- ・ コロナの影響によるトリミング教育において技術レベルの遅れがあるのか確認。実習による技術習得のためオンラインのみでの授業は困難であると思われる。
 - ⇒ 自宅学習および夏期休暇期間を短縮し授業を行い、ほぼ平常授業に追いついた。成果としては100%とは言えないが、レベル的にはそれに近い状態である。リモートでの実施であったがトリマー選手権にも出場し優秀な成績を取めた学生もいる。
 - ⇒ 学生数増加に伴い、充実した実習ができる環境を保てるよう、継続して然るべき措置を講じていく。モデル犬募集に関しては、新規登録を増やすため多様な対策をとっている。
- ・ 美容、ペット業界に関しては、コロナ禍によるペットブームで生体の売れ行きが好調であり、それに伴いトリミングの売上も伸びている。新人教育については、未だに遅れが生じている。定期的に研修を行ってはいるが、例年と比較しスタッフ教育のレベル低下が懸念される。緊急事態宣言が落ち着き次第、早急に教育の方針を立て直し実施する予定。
- ・ トリマー不足が顕著に表れている。スタッフの待遇改善が追い付かず、離職率が高いことが、トリミング業界の大きな問題点であり、取り組むべき課題。現在は待遇改善等により、トリミングの価格改定が進み、市場は緩やかな微増傾向にある。
- ・ ペットサロン市場の状況としては、獣医師との連携体制を有効活用し、より専門的なヘルスケアサービスの強化を図る等、多様なサービスを展開し付加価値を高めている。
- ・ コロナの影響か、サービス業界、ホテル・観光業界からの就職希望が

急増している。それらの業界には、教育を含めコミュニケーション能力や人間力が高い優秀な人材が多い。ペット系の専門学校の学生が、動物好きで技術があるのは当たり前のことである。人に興味を持ち、コミュニケーション能力を高め、ホスピタリティ及び人間力を高められるような授業カリキュラムも検討していただきたい。

⇒本校のカリキュラムの中には一般教養、実務教養等でマナー教育を行ってはいるが、さらに充実を図って人間力を高める教育に注力していきたい。

(2) 動物看護関連科（動物看護科・動物看護研究科）

- ・現場サイドでは、年々増加している外国人客の受け入れに伴い、スタッフの英会話力の必要性が高まってきた。他校との差別化を図るためにも、是非英語の授業を取り入れていただきたい。

⇒英会話については、開校当初は一般教養の中に含まれていたが、動物看護師国家資格化を推進するにあたりカリキュラムから外した経緯がある。

- ・英会話は少しハードルが高いので、外国人のインバウンド対策として、タブレットで通訳オペレーターに繋がる「みえる通訳」のようなテクノロジーを活用してみてもどうか。

- ・医学部は3年から4年、獣医学部は4年から5年に進級する際に、コミュニケーション能力テストおよび医学の学科に合格しないと、大学病院での臨地実習はできない。一つの提案として、動物看護師のカリキュラムの中でも同様に2年から3年に進級する際に試験を設け、合格であれば動物病院への研修を許可するというようなことを導入されてはどうか。

⇒学生にはなるべく多くの動物病院での研修の機会は与えてあげたいが、2年生から3年生に進級するにあたり、段階的な目安、目標を立てることは検討していきたい。

- ・就職先とのミスマッチにより早々に退職した卒業生の状況把握について確認。

⇒時期がずれることもあるが、基本的には内定をいただいた企業には訪問し情報を得ている。卒業生から聴取はするも、本当の退職理由を聞き出せないこともあるが、人間関係での退職が主な理由であることが多い。

- ・職場におけるハラスメントについては、企業側で相談できる場を設ける等、働きやすい職場環境への改善が必要。そういう場を設けている企業を学生に紹介したり、より細かな情報を伝えるなど、就職指導の強化を図ることも必要。

(3) 動物共生関連科 (動物共生研究科・動物共生総合科)

- ・建設関連会社であるが、動物看護師を採用し活躍できる環境を作っている。動物共生という他校にはない強みをもって、今後もよりよい人材を輩出していただきたい。
- ・特養においては、コロナ禍により、利用者家族の面会もできない状況であった。施設内で感染クラスターが発生し在宅の事業が閉鎖されていた期間もあった。現在もフル装備で介護にあたっているため、犬を連れての介在実習は厳しい状況である。介護職員初任者研修の受け入れについては、夏ごろに見学実習から再開したいと考えている。
⇒学校法人としてワクチン職域接種を申請中。学校側も感染対策を徹底した上で、今年中に介在実習を再開したい。

(4) 各学科共通

- ・業界が魅力的になっていくには経営者の手腕が問われ、ビジネスモデルをどう作っていくのかというところにも関係してくる。そういった中で本校の共生科の役割というのは、他業種とのコラボレーションにより、新しい価値を生み出しているというところで期待をしている。
- ・ロボット共生社会、人工知能社会を迎えるにあたり、ホスピタリティ教育が非常に重要になってくるため授業の中でも教育をお願いしたい。
- ・グローバル社会を見据えて、言語に合わせた、翻訳のしやすい日本語教育があってもよい。
- ・事業の定義は「不」を取り除くことである。経営者が世の中の「不」を見定めて、それに対してサービスを提供していけばよい。
- ・保護犬の人気の高い。「保護犬を飼っている私」という表現として、保護犬が非常に分かりやすい。特に都内では純血ではない犬の方が珍しいこともあり、経営者側として事業の捉え方を変えていく必要があると同時に、是非学生にもその視点で世の中を見てもらいたい。経営者側としても、昭和、平成ではなく、令和の考え方を若い学生から引き出せるような仕組み作りが必要となってくる。また、そのような視点で物事を捉えることができる学生を輩出していただければ、業界も伸びていくと思われる。
⇒対応力、応用力のある人材を育成していきたい。

7. 次回委員会開催連絡

次回の委員会を、令和4年1月18日(火)14:00~15:00とする。詳細は後日連絡。

8. 閉会

座長の坂本敏校長から閉会の挨拶があり、教育課程編成委員会が閉会した。

【配布資料】

- ・ 教育課程編成委員会 令和3年度第1回委員会 議事次第
- ・ 令和2年度運営報告
- ・ 令和3年度運営計画
- ・ 学則（令和3年4月～）
- ・ 学習の手引き（履修便覧）2021年度
- ・ 教師・保護者用ガイドブック2022
- ・ 学校案内書2022
- ・ 職業実践専門課程関連資料
- ・ 新型コロナウイルス感染症等への対策・対応（概要）

以上